

国際協力の現場を語る

JICA(独立行政法人 国際協力機構)は開発途上国の発展を支援するため、実務の経験と知識を持った人達を「JICA海外協力隊」として派遣しています。この人達は海外旅行などでの体験とは違った、海外協力隊ならではの様々な体験をしています。赴任国で体験した、生活、文化、人々との触れ合い、苦労、喜び、伝えたいメッセージなどを熱く語っていただきます。

- ◆日 時 : 毎月第3水曜日 15時00分～16時45分
- ◆タイトル: シニアの挑戦 !! 国際協力の現場を語る
- ◆会 場 : JICA横浜 Web会議(Zoom)併用
- ◆主 催 : NPO法人 シニアボランティア経験を活かす会
- ◆協 力 : JICA横浜
- ◆会 費: 無 料(どなたでも自由に参加でき同時にZoomによるWeb会議も実施しますのでこちらへも参加できます)

会員以外の方でWeb会議への参加希望者は、
1. 氏名 2. メールアドレス 3. 「体験発表会参加希望」を
明記の上、以下へメールをお送りください。

メール宛先: info@jicasvob.com

Web会議に参加するための招待メールをお送りします。



赴任国(講演者)		「タイトル」 講演概要
第237回 10月15日 (水) ザンビア (鈴木 核)		「私の人生を変えたワールドカフェ」 ワールドカフェは、参加者が対話を通じてアイデアを共有し、気づきを得ることを目的とした話し合いのスタイルの一つです。これと出会い、私の人生は大きく変わりました。また、派遣先のザンビアでもこれを用いて成果を上げることができました。後半はみなさんにも体験していただきますが、リアル参加がお勧めです。お楽しみに！
第238回 11月19日 (水) エジプト (橋本 千鶴)		「イスラームの国でみた幼児教育」 活動先である任地ポートサイド県の100の保育園を管轄する社会連帯省。そこから保育園巡回という形での活動を行った。公立保育園の現状は厳しく、おもちゃが全くない園もある。イスラム教という日本には馴染みのない宗教の中で自分との価値観の違いも感じながら、私の試行錯誤の2年間の活動を報告させていただきます。
第239回 12月17日 (水) ラオス (歳原佳世子)		「ラオスの埋蔵文化財と考古学」 首都ビエンチャンで以前行われた発掘調査の出土資料の整理・分析を業務とする派遣だった。ちょうどそのときに国立大学に考古学講座が新設されることになったが誰も考古学を知らない、ということで、国立大学の講師たちに考古学を教えることになった。考古学の専門家を養成して埋蔵文化財を救えるか、前途多難なラオスの現状を考える。
第240回 1月21日 (水) モンゴル (菅野 絢子)		「モンゴルでの理学療法士としての活動より」 日本から飛行機で約5時間、モンゴルウランバートルは世界一寒い首都と言われています。夏はカラッと爽やか、冬は極寒。そんな地で経験したことに加え、JICAの無償資金協力により整備された派遣先の大学病院にて、現地の方へのリハビリ治療を行いながら同僚への技術指導、チーム医療促進のため行った活動の報告を行います。
第241回 2月18日 (水) マレーシア (永江 豊)		「職業訓練の教材のデジタル化支援」 日本の民間企業でITに従事し、国内外のデジタル化を支援した経験を活かし、マレーシアの職業訓練の活動を支援しました。マレーシアでは、1981年のルックイースト政策以降、工業化の発展は目覚ましく、先進国入りも視野に入る勢いです。そのような状況で、支援活動や日々の生活を通して感じた点についてお話しします。